

避難所の空間配置①「避難スペースの整理」

- ★ 避難所を円滑に運営する為には、居住・共有スペースを決めて周知する必要があります。
- ★ 各スペースはそれぞれの用途を明確にするとともに、ルールを周知し、守ってもらいます。
- ★ A-①②③を活用し、時期に応じた空間配置を実施してください。

1 居住スペース ー避難直後に行くことー

チェック



避難者を収容後、事前協議に基づき地域ごとにスペースを割り振ります。

- * 避難当初は、一時的に避難している方も多く含まれる時期なので、広いスペースの中で地域ごとにまとまってもらいます。

※裏面の「避難初期の空間配置例」を参照

災害時要援護者（高齢者・障害者・乳幼児など）への対応

（※ 体力・障害・症状などから、ケアが必要な方）

チェック



体育館での避難生活が可能な場合は、その中で環境のよい避難スペースを確保します。

- * 足腰が悪い、支援が必要など、良い環境を提供する必要がある場合。

チェック



体育館での避難生活が難しい場合は、施設管理者との事前協議に基づき別の部屋などを使用します。

- * 介護が必要、歩行が困難など、大勢の人の中での生活が困難な場合。

※裏面の「災害時要援護者の対応例」を参照

2 共有スペース ー避難直後に行くことー

チェック

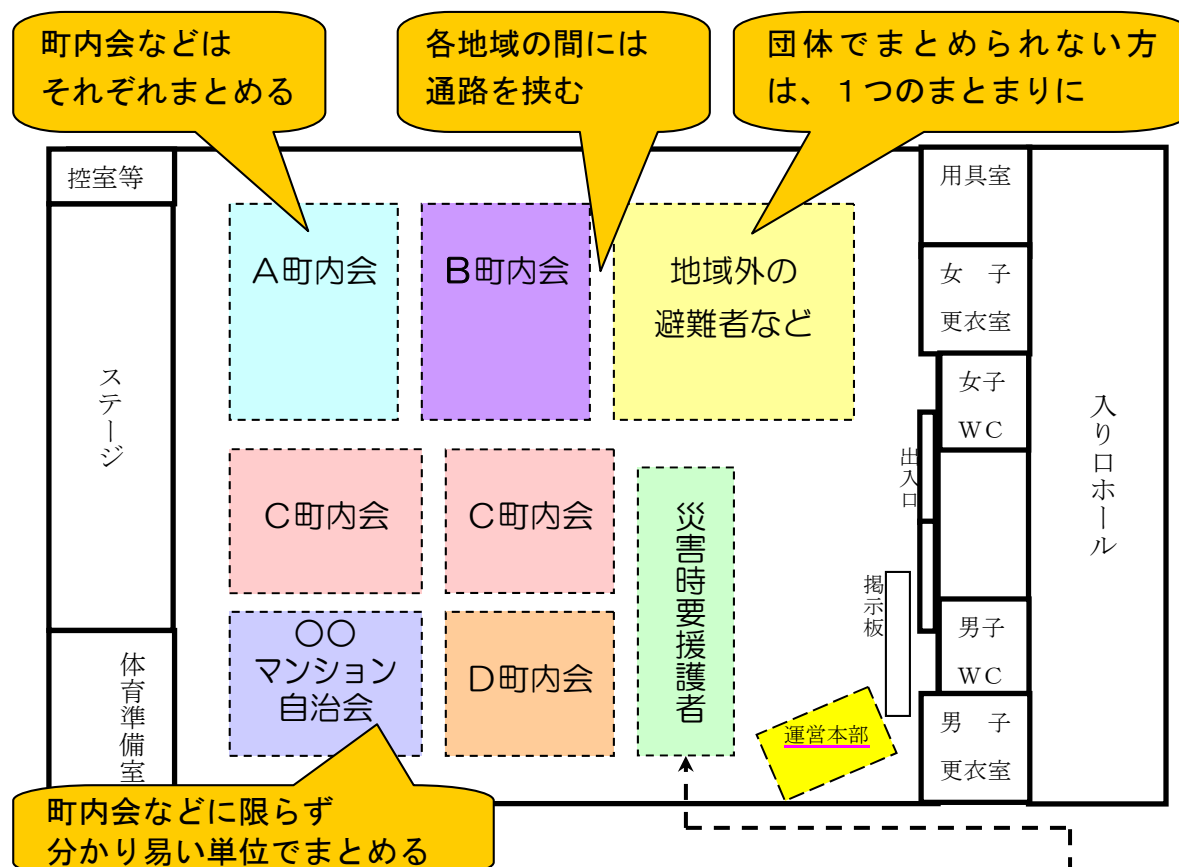


避難直後から必要となる「トイレ」、「ペットスペース」、食事を作る「調理設備」などは、場所や使用の可否を早めに確認して対応します。

- * トイレの対応はシートCを参照してください。
- * ペットの対応はシートFを参照してください。
- * 調理設備についてはシートHを参照してください。

* 避難所の状況が落ち着いてきたら
居住スペースについては「A-②」を実施します。
共有スペースについては「A-③」を実施します。

避難初期の空間配置例（体育館）



災害時要援護者の対応例

★ 他の避難者と同じ場所で支援が可能な場合

- 足腰が悪い
- 目が見えない
- 支援が必要 など



《優先的に環境の良いスペースへ》

- 身動きが楽 トイレに行きやすい
- 運営者がすぐに支援できる など



★ 他の避難者と同じ場所で支援が難しい場合

- 介護が必要
- 歩行困難
- 共同生活ができない など



《教室など、別の部屋を配慮》

- 過ごしやすい 家族が介護しやすい
- 注) 施設管理者との協議が必要
- 注) 建物の安全確認が必要



※ 避難所の状況が落ち着いてきたら、より良い環境が提供できるよう検討しましょう。

避難所の空間配置②「居住スペースの配置」

～避難所の状況が落ち着いてきたら実施しましょう～

チェック

☐

地域のまとまりごとに「居住組」を編成し、代表者を決めてもらいます。

- * 避難者のまとまりを指します。町内会などの単位を生かして、複数の組を編成します。
- * 名簿作成時には、この居住組ごとに作成すると後の管理がしやすくなります。

チェック

☐

災害時要援護者への、より良い環境の配慮を検討します。

※裏面参照

- * 指定避難所内での生活が困難な方は、「福祉避難所」などへの移動を検討

～居住組を編成した以降は、以下に留意して居住スペースの整理を継続します～

チェック → 継続

☐

体育館の居住スペースを整理します。

※裏面参照

- ◇ 居室内では、荷物や敷き物で世帯同士の区画の境界を明確にします。
- ◇ 居室内の通路は、各世帯の区画が1か所以上面するように設定します。
- ◇ 災害時要援護者へは、引き続き生活しやすい場所の提供を配慮します。
- ◇ ダンボールや仕切り板などを用いて、可能な範囲で個人のプライバシーを確保します。
- ◇ 避難者が減少したら、規模に応じて居住組の再編成や居室の移動を実施します。

チェック → 継続

☐

教室などの使用場所・方法を決めます。

※裏面参照

- ◇ 使用する部屋などは勝手に決めず、必ず施設管理者に確認し、施設で定める利用計画に基づいて決定します。
- ◇ 避難者が多い時期は、基本的には災害時要援護者などのために使用します。
- ◇ 人数の規模に応じて居住組を再編成するなどし、居住組単位で移動します。

※ 避難者の増減に応じて、避難所閉鎖まで上記のポイントを繰り返し実施してください。

災害時要援護者（指定避難所での生活が困難）へより良い環境の配慮



地域団体や避難所担当職員

《近くの市民センターなどへの移動を配慮》

- 過ごしやすい 家族が介護しやすい
- 注) センターなどの状況確認が必要
- 注) 事前協議内容に基づき実施する



避難所担当職員

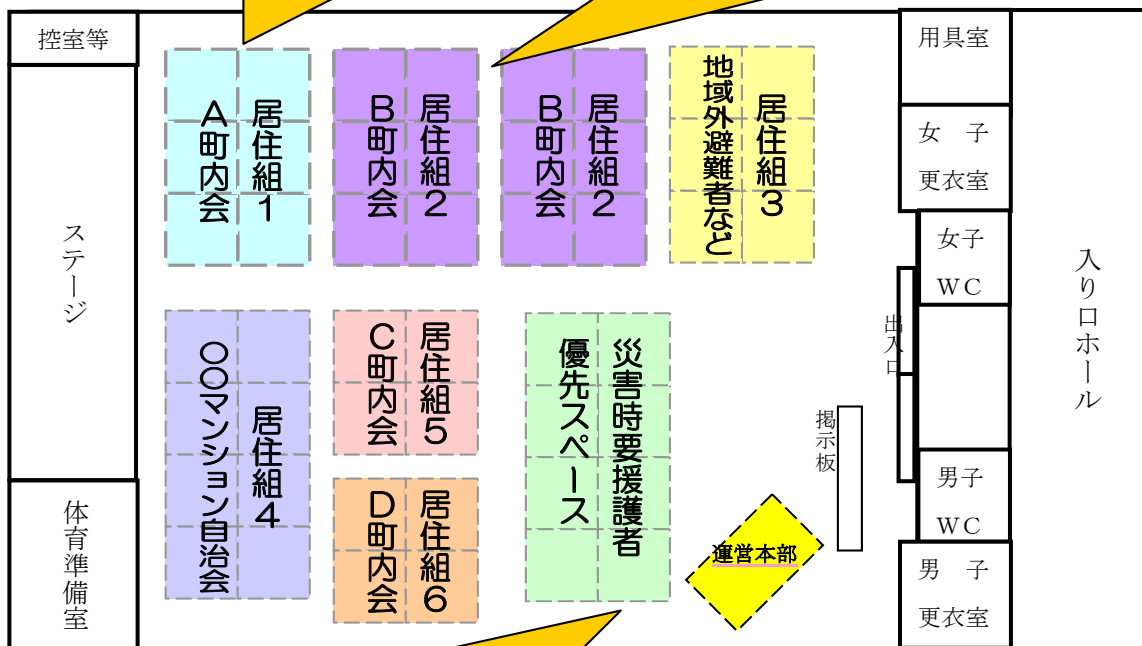
《福祉避難所への移動を配慮》

- 介護士などのスタッフがいる
- 注) 福祉避難所の開設状況の把握が必要
- 注) 区災害対策本部との調整が必要

空間配置例（体育館）

敷き物などで、
世帯間の境が分かるように。

各世帯が、1 か所以上通路に接するような配置を。
※同じ居住組内でも同様に配置します。



災害時要援護者へ環境の良いスペースを。
※身動きがとりやすい トイレに近い など

空間配置例（教室など）

分け方の一例（学校）

災害時要援護者への
スペースの提供を検討

施設管理者と協議

- * 施設の利用計画に基づき決定
- * 事前協議に基づき決定

災害時要援護者

- ⇒ 多目的室
- ⇒ ひろびろトイレに近い〇〇室

その他の避難者

- ⇒ 体育館

など

避難所の空間配置③「共有スペースの配置」

～避難所の状況が落ち着いてきたら、以下に留意して共有スペースの整理を継続します。～

チェック → 継続



避難所の共有スペースを整理します。

- ◇ 避難者の日常生活を保つために必要な機能を、共有スペースとして確保します。
(下表の項目をはじめ、対応が可能になったものから順に確保します。)
- ◇ 各共有スペースは、避難所施設が事前に定めた利用計画などを考慮して決定します。
- ◇ 各共有スペースは、事前協議に基づきそれぞれ利用のルールを決定します。
- ◇ 確保できた共有スペースとルールは、掲示などで避難者に周知します。
- ◇ 避難所以外でも、避難者にかかわること(*)については、区災害対策本部などからの情報を掲示して、避難者に周知します。

*入浴施設の営業開始、病院の受診再開、介護施設の受入れ開始 など

-共有空間例-

下の表を参考に、対応できるものから順に確保します

チェック	施設	設置場所
	居住スペース	
	居住スペース	
	居住スペース	
	居住スペース	
	運営本部(連絡所)	
	医務室	
	情報機器設置場所	
	情報掲示板	
	ごみ集積場所	
	仮設トイレ設置場所	
	救援物資集積場所	
	救援物資配付場所	
	仮設電話設置場所	
	相談室	

チェック	施設	設置場所
	風呂	
	更衣室(男性)	
	更衣室(女性)	
	洗濯場	
	物干し場(男性)	
	物干し場(女性)	
	授乳室	
	介護室	
	調理室	
	給水室	
	救急車用駐車場	
	喫煙場所	
	ペットスペース	

※ 共有スペースについては、避難所閉鎖まで上記のポイントを繰り返し実施してください。

—共有スペースを配置するうえでの参考—

プライバシーに配慮しましょう

* 集団生活を送る避難所では、個人のプライバシーへの配慮がとても重要です。
以下のような、プライバシーに配慮した共有スペースの設置を心がけます。

- 男女別の更衣室 ○ 男女別の物干し場
- 男女別のトイレ ○ 授乳スペースの設置 など

* 指定避難所には備蓄されている「テント式プライベートルーム」もうまく活用してください。

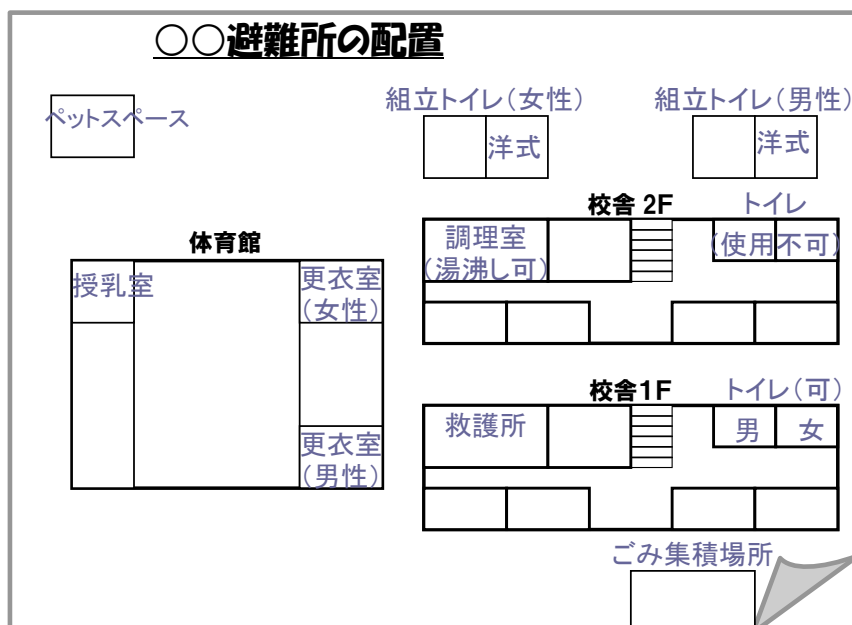
衛生面などに配慮しましょう

* トイレやごみ集積場所は、悪臭が居住スペースに届かない場所に設置しましょう。
* ペットスペースは、アレルギーなどを抱えた方などに配慮し、ペット連れでない避難者の居住スペースとは離れた場所に設けましょう。

設置場所とルールを明確にしましょう

* 共有スペースの設置場所を掲示して、避難者に周知しましょう。
* 利用する際のルールを掲示して、避難者に厳守してもらいましょう。

掲示例)



〇〇の使用ルール

-
-
-
-

* ルールについては活動編P35～を参照